

# 千葉市立青葉病院 診療科別臨床研修プログラム 皮膚科

## I. 研修プログラムの目的および特徴

皮膚は身体の内外的からの影響を受けて鋭敏に反応して様々な病変を呈するため、日常診療における皮膚の観察は、その手技の簡便さに比して極めて多くの情報もたらす。しかしながら、正しい情報を得るには発疹学に基づいた適切な皮膚所見の把握が必須である。皮膚科研修は選択科のひとつとして整備されているが、プライマリケアにおいて皮膚の観察は極めて重要な位置を占める点からも、皮膚科研修は将来の専門科を問わず初期臨床研修の一環として有意義なものである。本プログラムでは、皮膚診療の根幹となる発疹学の基礎の習得を第一の目標とする。あわせて皮膚科的診断法および治療法の基本的技術を習得し、皮膚科関連領域に関する広い視野を養うものである。

## II. 研修指導医

研修責任者	遠藤 秀治	皮膚科統括部長	皮膚科全般、母斑症
-------	-------	---------	-----------

## III. 研修内容と到達目標

### 1. 一般目標

皮膚科診療の基礎を体得すると共に、皮膚科特有の検査法・治療法の理解を深め、日常診療でよく経験する一般的な皮膚疾患に対する一次診療が可能な診療方法を学習する。また専門的治療が必要な重症疾患に対して、その状態を正確に把握する能力を身につけ、適切に専門医療機関へ紹介できるだけの基礎的知識を学ぶ。

### 2. 行動目標

#### (1) 基本的な身体診察法

- 1) 発疹を詳細に観察し、適切な表現、用語で記載できる
- 2) 粘膜（口腔、外陰部）、爪、毛髪の所見を診察し、記載できる

#### (2) 基本的な臨床検査

- 1) アレルギー検査
  - ・貼付試験
- 2) 真菌学的検査
  - ・真菌鏡検（KOH法、パーカーインク法）、真菌培養
  - ・ウッド燈検査
- 3) 細胞診、病理組織検査
  - ・ツァンク試験、皮膚生検
- 3) 光線過敏性検査
  - ・光線テスト、光線パッチテストなど

### A. 基本的手技

- (1) 軟膏処置ができる
- (2) 創傷処置ができる。

## B. 基本的治療法

- (1) 外用治療（軟膏治療）を実施でき、かつセルフケアの指導ができる
  - ・ステロイド剤（副作用、適切な使用法について説明できる）
  - ・非ステロイド剤、抗真菌剤、抗菌剤
- (2) 光線治療（NB-UVB 療法と PUVA 療法）を実施できる
- (3) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療（麻薬を含む）ができる
  - ・抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬
  - ・抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬
  - ・副腎皮質ステロイド薬、鎮痛解熱薬
- (4) 輸液ができる
- (5) 基本的な皮膚外科的治療ができる
  - ・冷凍療法
  - ・良性腫瘍の切除（くり抜き法、単純縫縮）
  - ・褥瘡のケア、創傷被覆剤の選択、使用ができる
  - ・植皮術

## C. 経験すべき症状、病態、疾患

- (1) 頻度の高い症状
  - ・発疹（主体となる項目なので(3)-1 に別途記載）
  - ・発熱
  - ・痒み
  - ・疼痛
- (2) 緊急を要する症状、病態
  - ・急性感染症
  - ・外傷
  - ・熱傷
- (3) 経験が求められる疾患、病態
  - 1) 皮膚系疾患
    - 下記疾患に対して、各症例ごとに発疹学に基づいた現症を適確に記載できる。
      - ① 湿疹、皮膚炎群（アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎など）
      - ② 蕁麻疹
      - ③ 紅斑症（多形浸出性紅斑、Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮壊死症、結節性紅斑、紅皮症など）
      - ④ 紫斑（アナフィラクトイド紫斑など）
      - ⑤ 循環障害（糖尿病性壊疽、うっ滞性皮膚炎など）
      - ⑥ 膠原病と類症（全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、シェーグレン症候群、皮膚の血管炎、ベーチェット病など）
      - ⑦ 肉芽腫（サルコイドーシスなど）
      - ⑧ 物理化学的皮膚障害（熱傷、凍瘡など）
      - ⑨ 薬疹

- ⑩ 水疱症、膿疱症（水疱性類天疱瘡など）
  - ⑪ 炎症性角化症（尋常性乾癬など）
  - ⑫ 代謝異常（アミロイドーシス、黄色腫症）
  - ⑬ 皮膚腫瘍（脂漏性角化症、粉瘤、色素性母斑、日光角化症、ボーエン病、有棘細胞癌、基底細胞癌、悪性黒色腫、パジェット病など）
  - ⑭ 皮膚感染症（単純性ヘルペス、帯状疱疹、ウイルス性疣贅、蜂窩織炎、足爪白癬、体部白癬、カンジダ性皮膚炎など）
  - ⑮ 動物性皮膚疾患（各種虫刺症、疥癬など）
- 2) 血液、造血器、リンパ網内系疾患
- ① 貧血（鉄欠乏貧血、二次性貧血）
  - ② 皮膚の悪性リンパ腫（菌状息肉症など）
  - ③ 紫斑病
- 3) 循環器系疾患
- ① 動脈疾患（閉塞性動脈硬化症、バージャー病）
  - ② 静脈、リンパ系疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫）
- 4) 内分泌、栄養、代謝系疾患
- ① 代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症）
- 5) 加齢と老化
- ① 老年症候群（褥瘡）

#### IV 評価法

1. 研修プログラム終了時に、各指導医の総意に基づき指導責任者により総合評価が行われる。
2. 指導医により、各到達目標に対する評価が行われる。
3. 研修医は、各到達目標に対する自己評価表を提出する。